

公的年金による 社会全体の支え合い

疑問

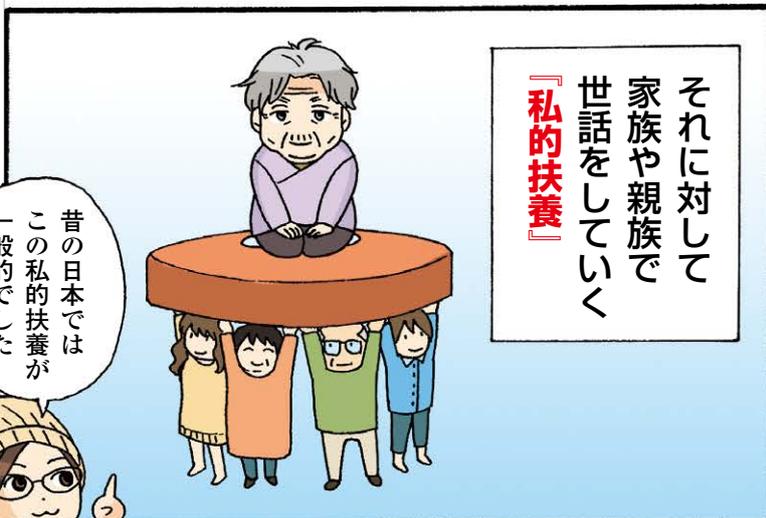
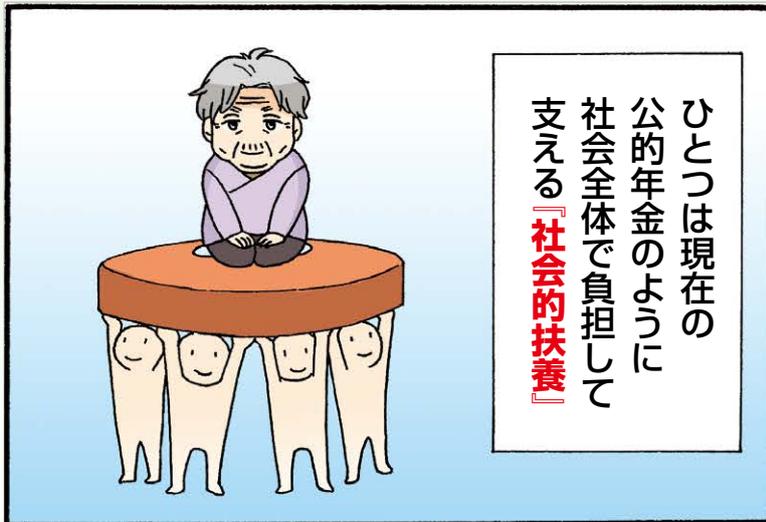


年金がなかった昔の人は、どうやって生活していたのかしら

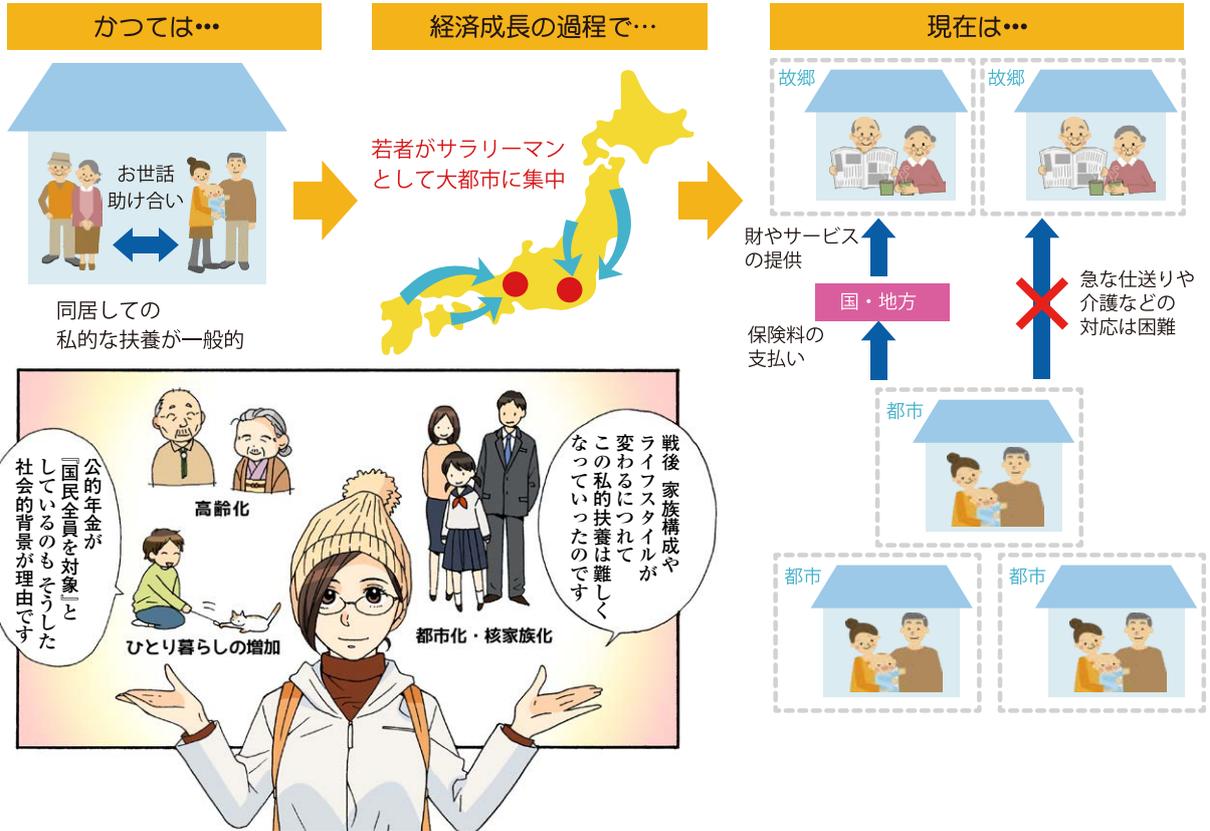


家族や親族が養う「私的扶養」が強く機能していました

公的年金制度が今ほど普及していなかったころは、
家族や親族で高齢者を世話していく「私的扶養」が一般的でした。



私的扶養から社会的扶養へ



かつては公的年金を多くの方が受給していたわけではなく、受給していたとしても額が少ないこともあり。そのため、多くの方が自分の収入から親を扶養していました（私的扶養）。
現在では公的年金制度が充実し、生活の支えとなることで、個人で親を扶養する負担は昔と比べれば軽くなりました。自分の収入で親を養っていたことが、公的年金に移行していったのです（社会的扶養）。

社会的扶養の意義

今、年金制度をやめて私的扶養するとしたらどうなるでしょうか。

たえば
公的年金がなかったら
今のお年寄りは
どうやって
暮らしていけば
いいと思いますか？

昔は
兄弟が多いことが
当たり前でしたが

ええ
公的年金が
なかったとしても
高齢者は誰かが
扶養しなければ
なりません

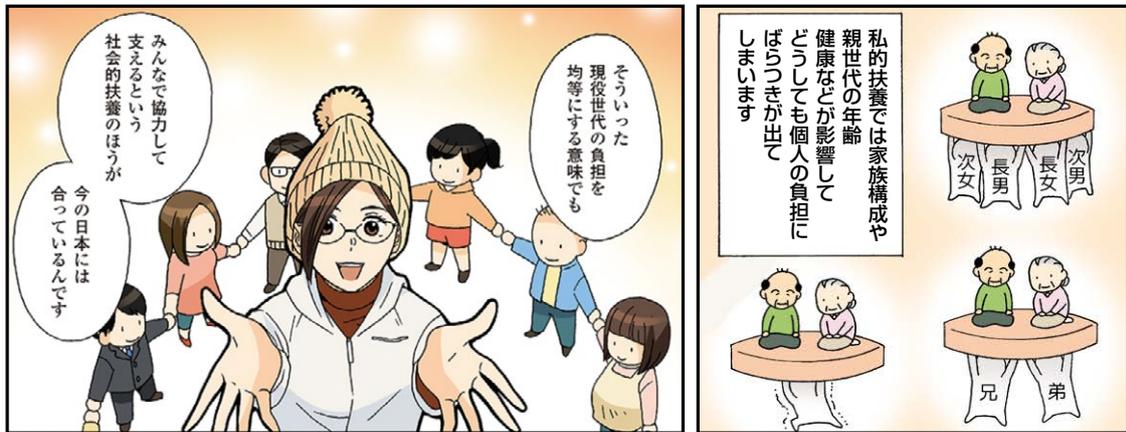
今
一人っ子の家庭も
ずいぶん多く
なりましたよね

また 医療が発達し
お年寄りも長く元気に
生きていけるように
なりました

それもあり
お年寄りを
支えるための
個人の負担は
昔より重くなつて
いますよね

せえ

昔は兄弟が多くなりましたが、今は一人っ子も増えました。また、お年寄りも元気に長生きになりました。私的扶養では、家族構成や親の年齢・健康などが影響して、個人の負担にばらつきが出てしまいます。現役世代の負担を均等にする意味でもみんなで協力して支える必要があります。



また、公的年金が普及している現在においては、公的年金の社会的扶養の役割を忘れがちですが、現役世代は親に対する経済的な心配が減り、高齢者は自分の子どもに負担をかけないで経済的に自立した生活を送りやすくなります。

現役世代も実感できる公的年金のメリット

公的年金は、「老齢年金」という長生きに対する保障だけでなく、若くてもけがや病気などで障害が残った場合に支給される「障害年金」、一家の大黒柱が死亡した場合に支給される「遺族年金」があります。予測が難しいけがや病気などに対してみんなで支えあう保険の仕組みです。公的年金の保険料を納めることで、生涯にわたって安心を得ることができます。



たとえば、皆さんは国民健康保険、協会けんぽや組合健保の保険料を払っていると思います。ですが、こうした公的医療保険は、けがをしたり、病気になったりしなければ給付は受けられません。これを損だと思いませんか？

いつ病気になるかはわからないし、万が一のことを考えると安心できるから、病気にならなかったからといって損だとは思わないよな



年金というと払った保険料と給付される年金額の大小といった経済的な損得に目が行きやすいですが、公的年金が持つ「安心」のメリットにもっと目を向けてもいいのではないのでしょうか。

